ユネスコ群馬 No.84

Unesco Gunma

群馬県ユネスコ連絡協議会 ／ http://gunma-unesco.com　　会長　岸 正博 ／ 群馬県教育委員会生涯学習課

つなげよう平和の心　広げようユネスコの輪

「メディア情報リテラシー」とユネスコ

群馬県ユネスコ連絡協議会
会長　　岸　正博

ロシアによるウクライナ侵攻をめぐる情報戦、コロナをめぐる真偽不明の情報、好みの情報ばかりに包まれる「フィルターバブル」など、私たちはいま、AI時代のあふれる情報の中にいる。

民主主義国では、国が情報統制をするのではなく、教育やメディアの自主的な取組により、偽情報やプロパガンダに対抗する力を市民が持つことを最優先する。情報の管理、偽情報との闘いの必要性の認識は、生成AIの登場により「おいしい『毒林檎』として『情報的な健康』を侵害しうる」とされる。

顕在化する環境問題、激化する自然災害の映像がリアルタイムで配信されるなど、こんなにも世界を意識する時代はかつてない。この世界の現実を理解した上で、自分は何ができるのかが問われる。

ユネスコは、「メディア情報リテラシー」を「社会にかかわる積極的な市民となるために、メディアやその他の情報提供者と効果的にかかわり、批判的思考力や生涯学習能力を身につけるために必要な本質的なコンピテンシー(知識、技能、態度)」だとしている。(UNESCO 2013)

民主主義の危機ともいえる状況の中、教育、科学、文化、情報・コミュニケーションを通じて、平和や持続可能な社会の構築に貢献するユネスコの理念を再認識するとともに、これからの時代にユネスコに求められる役割を再検討したい。

「温泉文化」のユネスコ無形文化遺産登録

群馬県知事
山本　一太

温泉は、豊かな自然の恵みであり、日本全国の各地域にあって、古より人々の心身を癒やしてきた、日本人にとって不可欠な文化です。

しかし、人口減少や高齢化、新型コロナウイルス感染症の影響等により、「温泉文化」が危機にさらされています。「温泉文化」を次代へと守り伝えるため、群馬県では、政治、行政、温泉地をはじめとする多くの関係者の皆様と連携し、「温泉文化」をユネスコ無形文化遺産に登録する取組を進めています。

この取組は、群馬発の取組として、平成30年に始まりました。昨年11月には、「『温泉文化』ユネスコ無形文化遺産登録推進議員連盟」が立ち上がり、120名を超える国会議員に参画いただいております。また、「『温泉文化』ユネスコ無形文化遺産登録を応援する知事の会」には35道県が参画し、全国的な動きとなっています。

さらに、温泉地や国民を盛り上げていく動きとして、温泉関係団体を中心に、「『温泉文化』ユネスコ無形文化遺産全国推進協議会」が設立され、今後、民間団体主導の取組も進んでいきます。

極めて困難な挑戦ではありますが、温泉地で働く人たちに誇りと希望を持ってもらい、温泉地を盛り上げるため、全力で早期登録を目指して参ります。群馬県ユネスコ連絡協議会の皆様におかれましても、ご賛同とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

2023年度　活動方針

1-活動テーマ

広げよう 平和の心
-持続可能な社会の実現を目指す民間ユネスコ活動-

2-趣旨

ユネスコ憲章前文には、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。‥よって平和は、失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない」とある。21世紀は激動する国際社会であり、真の世界平和が実現するとはいえない状況にある中、改めてユネスコの理念の崇高さと使命の大切さを痛感する。

日本ユネスコ国内委員会は、ユネスコ創設70周年の提言として、新しい時代の国際社会における知的リーダーとしての役割、持続可能な社会の実現への貢献、多様性を尊重する社会の実現への貢献を提言している。

そこで、2023年度の県ユ連活動方針として、次の3点をあげる。

(1) 教育、科学、文化、情報・コミュニケーションを通じた平和な世界への貢献

ユネスコ精神を普及し、平和の活動の輪を広める。

「メディア情報リテラシー」の重要性の認識。

(2) ESD/SDGsの推進

SDGs全ての目標達成に貢献する持続可能な開発のための教育(ESD)を推進する。

コロナ危機を受けた世界の中で、環境、防災、多文化共生、インクルーシブ社会など、それぞれの地域の実情を踏まえた課題を「自分ごと」として捉え、グローカルな視点で探究し、課題解決できる人材の育成。

(3) 文化多様性の保護・促進

文化遺産・自然遺産・未来遺産等にかかわる情報発信や保護・保全の活動を推進する。

経済・社会・個人の生活のありようも含め、自立した個人として人間開発を目指し、一歩踏み出し、できることをやる。

グローバリズムが存在価値を問われ、国際社会、地域社会の連帯の危機の中、私たちは地域で何をなすべきか、何が期待されているのか、これからの民間ユネスコ活動の役割は何かを課題意識とし、活動を進めていくこととする。

事業計画

	事　業　名	期　日	会　場	備　考
県ユ連主催事業	定期総会	5月21日(日)	前橋市中央公民館	<前橋ユ協主管>事業・決算報告、事業計画(案)予算(案)等審議
	運営研修兼事務局員研修会	10月28日(土)	社会教育館	<富岡ユ協主管>
	研修視察	6月 4日(日)	碓氷峠鉄道施設	<安中碓氷ユ協主管>
	海外青年交歓研修会	月　日(　)		<大泉ユ協主管>
	広報誌「ユネスコ群馬」第84・85号刊行	発行 7月 1日 1月31日	2,300部印刷予定	<県ユ連編集委員会担当>年2回発行 (会員全員及び関係者に配布)
同	ユネスコスクール研修会	月　日(　)	未定	<ユネスコスクール委員会担当>
	世界遺産研修会	中止	「研修視察」と統合	<世界遺産委員会担当>
補助事業	国際理解バス	8月中に県内のユ協が実施予定	訪問先は東京又は筑波JICAや都内大使館等	＊国際理解・国際交流を図るため、各ユ協が児童・生徒対象に実施
	文化活動補助 ―絵画等作品展の補助―	県内4ユ協がユ協毎に実施	各ユ協が会場を設定	＊児童・生徒の絵画等の作品の展示会を単位ユ協が行う。
会議	理事会	年間6回 (隔月開催)	地域づくりセンター藤岡 (3階大会議室)	4月13日(木) 7月6日(木) 9月7日(木) 11月9日(木) 1月11日(木) 3月14日(木)
	役員会議 (本部役員と事務局員参加)	同	藤岡市・教育庁舎3階 会議室※(地域づくりセ)	4月4日(火) 6月27日(火) 8月29日(火) ※10月31日(火) 12月19日(火) 2月27日(火)
日ユ協連等	日ユ協連定時総会	6月17日(土)	東京・新宿	
	日本ユネスコ運動全国大会	9月 9日(土)	富士吉田市ふじさんホール	山梨県
	関ブロ大会	9月 3日(日)	青山学院大学	東京都
	平和の鐘を鳴らそう!	7月～8月	沼田7月15日 前橋7月15日	民間ユネスコ運動の日(7月14日)
	日ユ協連評議員会に出席	8月5日(土)2月10日(土)	東京・新宿	
その他	世界寺子屋運動 (日ユ協連と連携・協力)	通年		県内各ユ協が「書きそんじハガキ・キャンペーン2024」を推進
	災害災子ども支援募金 (日ユ協連と連携協力)	通年		県内各ユ協が募金を継続、震災被災者への就学支援

2023年度　群馬県ユネスコ連絡協議会　予算

1 収入

項目	2022年度　予算(円)	2023年度　予算(円)	摘要
繰越金	54,213	92,591	前年度繰越金
会費	490,000	490,000	会費　490,000円(40,000円×12ユ協+10,000円国際ソロプチミスト前橋)
事業収入	390,000	390,000	事業費　240,000円(20,000円×12ユ協) 名刺交換代　150,000円(2,000円×75人)
補助金	70,000	70,000	群馬県教育委員会補助金
雑収入	20	1	普通預金利子
合計	1,004,233	1,042,592	

2 支出

項目		2022年度　予算(円)	2023年度　予算(円)	摘要
会議費		30,000	20,000	理事会等会議費
旅費		60,000	50,000	各種旅費
通信費		30,000	20,000	切手等通信費
印刷費		260,000	300,000	＜内訳＞各種印刷経費　50,000円 広報「ユネスコ群馬」年2回発行　250,000円
消耗品費		35,000	25,000	事務用品等消耗品費
事業費		446,000	468,000	
事業費内訳	単ユ協助成	156,000	156,000	13,000円×12ユ協
	県ユ連総会	30,000	30,000	前橋ユネスコ協会
	運営研修	50,000	50,000	富岡ユネスコ協会
	海外青年交歓研修	50,000	50,000	大泉ユネスコ協会
	研修視察	0	50,000	安中碓氷ユネスコ協会
	世界遺産委員会	30,000	0	中止
	ユネスコスクール委員会	50,000	50,000	藤岡地方ユネスコ協会
	国際理解バス	14,000	16,000	2,000×8ユ協(館林、大泉、藤岡地方、沼田、太田、前橋、富岡、高崎)
	HP維持管理費	30,000	30,000	HP作成委員会
	文化活動補助費	36,000	36,000	6,000円×6ユ協(伊勢崎、前橋、太田、高崎、安中、大泉)
構成員負担金		6,600	6,600	県教育振興会会費3,000円、日ユ協連会費3,600円
積立金		100,000	100,000	＜内訳＞関ブロ積立金　50,000円 創立60周年記念事業積立金　50,000円
慶弔費		20,000	20,000	
予備費		16,633	32,992	
合計		1,004,233	1,042,592	

「第8回群馬県ユネスコスクール研修会」報告

1 趣　旨:ESD/SDGs、ユネスコスクールの理解と実践の質的向上、並びに活動の推進を図る。
2 日　時:2023年1月31日(火)13:20～16:40
3 会　場:藤岡公民館　3階大会議室
4 参加者:ユ協会員27名(9ユ協)、県内小中高教員28名、教委関係職員4名、一般(高校生)3名、計62名
5 次　第 ・主催挨拶　県ユネスコ連絡協議会会長　岸　正博(ユネスコスクール委員会委員長)
・来賓挨拶　藤岡市長　新井　雅博様

Ⅰ部　講演

佐藤 真久教授

演題:「これからのユネスコスクールの展開と拡充に向けて」～国連・ESDの10年の経験を活かし、SDGsの本質に対応する～
講師:佐藤　真久様
(東京都市大学大学院環境情報学研究科　教授)

Ⅱ部　SDGs活動報告・現状と課題
「ユネスコスクールとしての新島学園の実践」
新島学園高等学校２年
インターアクト部部長　岩橋　柚月様
「鐵建SDGs～今できることから始めよう～」
株式会社鐵建　経営企画室　西山　裕美様
・質疑・協議
(コーディネーター:藤岡地方ユ協副会長　西澤　恭順)

佐藤教授は94ページにわたる資料を用意され、講演されました。これからの時代は気候変動、自然災害、高齢化、エネルギー問題、紛争、貧困格差など多くの問題が立ちふさがっているが、これらの問題はみな関連している。17の持続可能な目標もそれぞれに独立しているようだが、みな関連しているという。そして、この社会を変えていくには、まず自分が変わらなくてはならない、など強く語りました。

新島学園高校の岩橋さんは、募金活動やボランティア活動、耕作放棄の畑を菜の花畑にし、菜種油の収穫。また校内にポスターを貼り、学内生徒の意識を変えたことなど発表しました。

(株)鐵建の西山さんは、地域社会への貢献、自然環境を守ること、働きやすい職場環境をつくることなど、地域に貢献する企業の活動を発表しました。経営者側も若い社員の仕事を評価し、コミュニケーションを経営にとり入れ、会社の発展につなげているといいます。さらに、それをとおして社員がプライドの持てる会社を目指していることなど発表しました。

「SDGsをどのように進めていけばよいか、何をすればよいのかがわかった」「個人が変わることが社会を変える」「佐藤教授の熱い思いが伝わった講演、他の二人の発表の話を聞いてユネスコスクールとして何をしていけばよいか考える上で参考になった」などの感想が寄せられました。

持続可能な社会づくりの担い手の育成が求められている中、ユネスコスクールの取組と発信は重要です。「社会に開かれた教育課程」の実現に、地域の企業が大きな役割を果たしていく可能性を実感しました。　(依田　治雄)

県ユ連定期総会を終えて

前橋ユネスコ協会会長　矢島　俊夫

2023年度県ユ連総会は前橋ユネスコ協会が主管として開催することになりました。前橋市での総会は実に11年ぶりの開催になります。

昨年度に引き続き対面で、しかも人数制限なしでの総会が開催できることになりました。今年度は県ユ連をはじめ、各ユ協の活動が本格的に再開できることが期待されます。

総会では岸会長からの挨拶の中で、前橋ユ協の発足の歴史に触れていただき、青年部で活動した面々が今も活動していることを紹介していただき、会員同士で継続が大切と再確認する機会になりました。

前橋市長からの挨拶でも、ユネスコの理念である平和を希求するユネスコ活動への応援メッセージをいただき、胸をうたれる思いでした。

総会終了後「今、平和を広めるために」というテーマのもと、青年海外協力隊としてウガンダに派遣され、帰国したばかりの新井敦子さんからウガンダでの活動について報告していただき、献身的な活動に感銘をうけました。

また、群馬大学で学んでいるウクライナの二人から、日本語でウクライナの様子や家族のこと、将来のことなどをお話しいただき感極まる思いでした。

私たちは今、地域で何ができるかを問われた総会になった思いがしました。

ご列席いただいた皆さん、本当にありがとうございました。

前橋中央公民館　ホール

「あけぼの座」ユネスコの未来遺産に登録

沼田ユネスコ協会事務局長　大島　俊夫

沼田市の「沼須人形芝居あけぼの座」が2022年度の日本ユネスコ協会連盟プロジェクト未来遺産に群馬県で初めて認定され、5月13日(土)にホテルベラヴィータで登録証伝達式が行われた。

式に先立って「あけぼの座」の小学生を含む若い団員を中心に演目「小松姫物語」が上演され、続いて日ユ協連未来遺産委員の齋藤裕嗣先生から登録証を伝達され、県ユ連の岸会長からもご祝辞をいただいた。式後、関係者100名以上の参加で祝賀会が盛大かつ和やかに行われた。

沼須人形芝居は幕末に始まり、一時中断をしたこともあったが、昭和50年に保存会が結成され「あけぼの座」として復活した。一人で一体の人形を操るのが特徴で、人形、語り、三味線などすべての役割を座員が分担する。毎年4月3日の沼須砥石神社の祭りで演じられるほか、郷土芸能祭、社会福祉施設、学校、県内外の発表会などで演じられている。

20年ほど前からは市内の学校と連携し総合学習の時間に体験学習として子どもたちに触れさせているので、今では小・中・高校・大学生から90代の高齢者まで40名近い団員が家族的な雰囲気の中で楽しく活動している。

沼田ユネスコ協会の石田会長も団員であり、金井座長もユネスコ協会の会員で、金井座長は「先代から受け継いだ伝統芸能というたすきを、若い世代にもつなぎ、100年後の子どもたちにも伝えていきたい」と語っている。沼田ユネスコ協会として、これからも沼須人形芝居をはじめ、地域の伝統芸能の保存に協力していきたい。

「小松姫物語」

2023年度　本部役員・事務局員

会　長	岸　正博	藤岡地方
副会長	中村　利光	太　田
同	串田　昭光	高　崎
同	田中　一枝	桐　生
監　事	矢野　薫	安中碓氷
監　事	矢島　俊夫	前　橋
事務局長	依田　治雄	藤岡地方
事務局次長	木村　順子	同
書記・会計	貫井真由美	同
同	小暮　英美	同

- あとがき -

本部を引き継いで、2年目になります。県内各協会の協力を得て、広報を作り上げてきました。ご承知のように、長い間活動していても「ユネスコって、どんな団体なの?」と聞かれたり、社会の認知度がなかなかです。

広報の役割は大きいと思います。会員みんなで作り上げるこの広報を大いに活用し、会員の拡大に、また仲間への話題作りにと、地域社会へ入っていって、少しでもユネスコを発信していきましょう。

今年の目標は一人一人がこのことを心がけていったらいかがでしょうか。

(編集委員長　依田　治雄)

群馬県ユネスコ連絡協議会　加盟団体(設立順)

- 桐生ユネスコ協会
- 富岡ユネスコ協会
- 太田ユネスコ協会
- 沼田ユネスコ協会
- 前橋ユネスコ協会
- 館林ユネスコ協会
- 中之条ユ協(休会)
- 伊勢崎ユネスコ協会
- 安中碓氷ユネスコ協会
- 大泉ユネスコ協会
- 高崎ユネスコ協会
- 藤岡地方ユネスコ協会
- 国際ソロプチミスト前橋

編集・発行

群馬県ユネスコ連絡協議会
発行責任者　岸　正博
群馬県前橋市大手町1-1-1
群馬県教育委員会生涯学習課内
TEL：027-226-4668

編集・印刷

株式会社大塚カラー
群馬営業所
群馬県高崎市足門町1637-7
TEL：027-384-3307